



メダカのお話

本通信6号でも触れた、「東中とんぼ池」のメダカたちについてお話ししようと思います。東中のメダカたちのルーツは、「現 横浜メダカの会 副会長 丸茂 高先生」より、数年前に分けていただいた十数匹のメダカたちです。^{かたびらがわ}帷子川原産と紹介されていたとおり、彼らの出身地は、若葉台、上川井地区を流域に持つ帷子川水系です。しかし、現在の帷子川では自然状態の姿を見ることができません。いただいたメダカは奇跡的に保護されていた仲間なのです。



みなさんは、親の様々な特徴が、遺伝子により子孫に受け継がれていくことをご存じでしょう。実は近年の研究により、外見上は同じように見える天然のメダカ（改良種のヒメダカと区別するためクロメダカともよばれます）にも、彼らが生活する水系毎に、遺伝子の違いがあることが分かってきました。残念なことに、帷子川では、この遺伝子が消滅してしまったのです。要するに、「帷子川のメダカは絶滅」したということです。

ですから、自然状態で帷子川原産メダカのいなくなってしまう今、帷子川流域に所在する「東中とんぼ池」に、帷子川原産のメダカがいる意味は大きいのです。

ここでみなさんにお願ひがあります。トンボ池にはむやみに動植物を放さないでほしいのです。例えばトンボ池にヒメダカを放したとします。当然、ヒメダカはクロメダカと子孫を残します。この時点で、ヒメダカとクロメダカの遺伝子は混ざり合い（交雑）クロメダカが持つ帷子川由来の遺伝子は消滅してしまうのです。これは、姿を消してしまう絶滅と同様の意味を持ちます。近頃の話で、日本産クワガタ虫と外国産のクワガタ虫の交雑種が、自然の野山で発見されるという報道がありました。ご想像通り、これはブームに乗って外国産クワガタ虫を飼育しているほんの一部の人々が、管理の失敗や、飼育できなくなりかわいそうだからと考えて、勝手に野山に放した結果、外国産クワガタ虫が日本の自然に入り込み、日本産クワガタ虫と交雑してしまったからに違いないのです。この事実を、「我々は、飼育の際には大きな責任を伴うこと」のメッセージとして受け止めたいものです。



東中農園のイチゴは、この時期次々と実を熟しています。どうぞみなさん、よく洗って **苺が食べ放題ですよ** から味見をしてください。わたしも試食しましたが、とても甘いイチゴでした。美味しかったです。でも、鳥たちとの競争になりそうです。彼らの朝は早いですから強敵ですね。

